

令和8年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（計画段階）  
（スクールマネージメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。</p> <p>そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。</p> <p>(1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢</p>	<p>○1人1台タブレット端末の導入4年目となり、タブレット端末の効果的な活用及び情報を正しく活用していく力の育成を再認識した。引き続き情報モラル・情報リテラシーを身に付けさせ、生徒がタブレット端末を効果的に活用できるよう研究する。</p> <p>○観点別評価については、評価方法について一定の方向性が見い出せ実施できた。</p> <p>○校則については、生徒会及び教職員の意見を踏まえて見直し図り、生徒へ周知することができた。</p> <p>○学校評価アンケートでは、9割以上の生徒が充実感を持って学校生活を送っていることが窺えた。次年度以降も本校の教育活動についてさらに見直しを行い、教職員が一丸となって組織的に取り組んでいくことが必要である。</p> <p>○生徒募集においては、山城通学圏の中3生の数が昨年度に比べ減少し、公立高校への志願者の減少数はさらにそれを上回っている。そのような状況の中で、本校の特色ある取組について中学生、保護者、地域に広く理解を促すことにより、入学者選抜において一定の成果を出すことができた。来年度も引き続き、広報活動等に積極的に取り組み、中学校との連携を密にすることが必要である。また、国際探究コースの魅力についても、より一層発信していく必要がある。</p>	<p>中期経営目標に掲げた本校のスクール・ミッション及び本校の教育目標を踏まえ、本年度は次の目標に重点を置く。</p> <p>(1)人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、互いの人格を尊重し、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。</p> <p>(2)規律ある態度の育成及び校則等の見直し 確かな学力の育成のため、授業規律及び生活規律を生徒に身に付けさせるよう学校全体で継続的な指導を図る。また、生徒指導提要の趣旨を踏まえ、引き続き校則及び諸規定についての見直しを図る。</p> <p>(3)授業改善と授業を通じた確かな学力の育成 学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりを推進し、生徒の学習到達度を的確に把握し、指導と評価の一体化を意識した授業を行う。また、特別支援教育の観点から授業を含めたすべての教育活動においてUD化を推進する。</p> <p>(4)家庭学習の定着と学習習慣の確立 授業と連動した課題の出し方を工夫し、家庭学習の必要性と目的を生徒に理解させ、家庭においても主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>(5)キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会のかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人一人に行い、希望進路の実現を図る。</p> <p>(6)総合的な探究の時間 「国際教育と地域連携をテーマとした探究学習」の研究をさらに推進し、その探究の成果を生徒の進路実現のために活用する。また、外部機関と連携し、データサイエンスを活用した課題解決型演習にも取り組む。</p> <p>(7)外部機関との連携 大学等の研究機関、地元小中学校、地域の団体または海外の高校などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(8)働き方改革 ICTを活用した教科・分掌等の業務内容の効率化を推進し、教職員が生徒と向き合う時間を確保しつつ、ライフワークバランスを踏まえた働きがいのある職場環境を整える。</p>

重点目標

<分掌・領域>

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域/教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	分掌間及び教科間の連携・協働の推進	各分掌・教科が連携・協働し、役割と責任を明確化した組織的な学校運営を推進する。ICTの活用(生成AI)と業務の精選により業務効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。働き方改革を推進し、持続可能で働きがいのある職場環境を構築する。		
教務部	・授業規律 ・授業改善・家庭学習の定着 ・評価と指導の一体化	・教員、生徒がともに「授業を大切に」という意識を持つとともに、あいさつをはじめ、授業規律、各種届の提出を徹底させる。 ・効果的に公開授業を行い、授業のUD化や生成AI等による個別最適な学びの支援を促進するとともに、授業の改善を図る。授業→家庭学習→進路実現と繋がるような授業実践について教科を越えて交流する。 ・評価して終わるのでなく、評価から見える生徒の様子を授業に反映できるよう、教科主任会議や公開授業などを通じて、評価と授業について交流をし、生徒の学力の伸長につなげる。		
総務企画部	・魅力的な広報活動の展開 ・地域に開かれた学校づくり	・中学生に本校の魅力伝えるため、各分掌・教科・生徒会・部活動と連携し、生徒有志を含む多様な生徒の協力を得て、学校説明会や部活動体験等を行い、効果的な広報活動を展開する。 ・PTA・教育後援会の運営・活動を役員と協力して円滑に行う。 ・地域の方や保護者、中学生等に学校の様子や生徒の活動が伝わるように、PTA広報誌、Webページ、Instagram等を活用する。		
生徒指導部	・学校行事(生徒指導部主管)の活性化 ・教職員で連携が取れた中で全校体制での生徒指導の推進	・文化祭、体育祭における生徒の充実度や満足度がより高いものとなる、取組にする。 ・学年との連携や様々な分掌との連携を密にし、全教職員で一致した生徒指導を行う体制をつくる。		

領域/教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
進路指導部	生徒が進路学習を通じて、社会との関わりを意識したキャリア形成を行い、希望進路実現に邁進する姿勢を涵養するために必要な支援を行う。 生徒だけではなく教職員も高い人権意識を持つための啓発活動を行う。	学年や状況に応じた進路学習を企画運営する。また、社会との関わりを意識し、入試に対応できる学力を育成するために各種学力テストなどを活用できる環境を整え、教科、学年部との連携を図り東宇治高校が抱える課題を共有する。さらに、学習用端末を用いた新たなキャリア教育の方法について、情報収集や検討を進める。 人権啓発活動の一環として人権教育及び研修などの企画運営を行う。特に、ICT化、外国人やLGBTQ+などの人権上の課題の変化、生徒状況などに対応した、現在求められている人権学習および教職員研修について検討を進める。		
保健部	生徒が心身ともに健やかな学校生活を送ることができるよう取り組む。	・生徒が抱える心身の健康課題に対し、他分掌や関係機関と連携を図りながら組織的に対応する。 ・健康上配慮が必要な場合や不登校傾向など様々な課題を持つ生徒に対し、緊急性や必要性を見極めた上で相談活動やカウンセリングを適宜実施する。 ・清掃活動をとおりて美化意識の高揚を促し、愛校心の涵養に務める。		
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。	・各教科と連携しながらメディアセンターとしての図書館運営を目指し、生徒・教職員の施設利用および図書の出借を促進する。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行えるよう、府立図書館等の相互貸借を活用し学習環境を整備する。 ・図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・図書館内での様々な企画・展示およびHPを活用しての広報活動に努め、「発信する図書館」を目指す。		
第1学年部	自主性を基盤に、規則正しい生活習慣と学習習慣の確立、良好な人間関係の構築に積極的に取り組ませる。また、安心・安全な生徒集団の形成のための人権意識を育てる。	・基本的な生活習慣の確立に向けて、規則正しい生活リズムを整え遅刻や身だしなみを含めた指導をする。 ・学力をつけるため、授業規律を確立し、自宅での学習習慣の定着を図る。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を通して、チームワークやリーダーシップ、問題解決能力などを養うとともに、人権を大切にできる集団を育てる。		
第2学年部	「生活・学習習慣の確立」、「進路目標の具体化」、「人権・規範意識の成熟」を柱とし、生徒が自己を見つめながら将来に向けて主体的に行動できる力の育成を図る。	・高校生活の中核学年として、規則正しい生活態度と物事を計画的に進める力の育成と、学習習慣の定着を図る。 ・家庭学習の充実や時間管理能力の向上を通して、主体的に学び続ける態度を育成する。 ・自己理解を深めながら、各種進路学習や情報提供を通して進路選択への意識を高め、3年次の進路実現に向けた準備を進める。 ・自他の人権を尊重する態度を育て、社会の一員としての責任ある行動を身につけさせる。 ・学校生活におけるルールや社会的規範の意味を理解させ、互いを尊重し合う健全な集団づくりを推進する。		
第3学年部	希望進路実現に向けた進路指導を通して、目標までの道を描き、力強く進む力を育成する。また、広い視野を持ち、積極的な交流を行うことで社会の一員としての未来を描く姿勢を培う。	・一人一人に寄り添った進路サポートの徹底 ・卒業生や外部講師による講演を活用し、目標を具現化する ・安易に妥協を選ばない進路指導 ・家庭学習習慣の確立 ・人との関わりを通して、課題解決へ向けた協力ができる力の育成		
事務部	学習環境の整備並びに希望進路実現の支援	引き続き予算の効率的な執行と経費節減を心がけ、ICT教育の充実等に必要予算を確保、学習環境の整備も継続する。老朽化した施設設備の改修についても持続的かつ計画的に実施する。 希望進路実現に向けた就学支援制度の一層の周知を徹底するとともに、丁寧な個別対応に努める。		
国語	教育のICT化や新学習指導要領に対応できるよう、積極的な授業改善に取り組む。	・「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習指導を丁寧に行うとともに、文章を読み論理的に考える力や、自分の考えを適切な言葉を用いて他者に伝える力を養う。 ・ICT教育の具体的手法や効果的指導法を研究し、教員間での情報共有を図る。 ・教材の精選を行い、指導法及び評価法についての研究を深める。 ・家庭学習を促し、主体的に学びへ向かう姿勢を育てる。		

領域/教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
地歴公民	授業を通して生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的な学びにつなげる。 希望進路を実現させるための学力を育む。 教科横断型学習の視点を取り入れ、現代の諸課題に多面的に考察する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートなどのICTや視聴覚教材を、効果的・発展的に活用し、生徒の主体的な学びを促進させる。</li> <li>・教科内での授業参観・研究を推進し、各教員が「UD化」を意識しての授業改善を行う。</li> <li>・進学講習を実施し、生徒の進学希望者の希望進路を叶える。</li> <li>・新学習指導要領における授業の進め方や評価等の研究を深める。</li> <li>・他教科を含め、既習事項を組み合わせて取り組むことのできるレポートやプレゼンテーション課題を作成し、生徒が「自分ごと」として提言できるよう指導を行う。また、その評価方法についても協議する機会を設ける。</li> </ul>		
数 学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの積極的な活用等様々なことに挑戦し、教員間で情報共有を図ることにより、授業改革を目指す。</li> <li>・毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。</li> <li>・定期テストに知識を活用する問題を出題し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。</li> <li>・新教育課程における授業の進め方・評価等の研究を深める。</li> <li>・家庭学習につながる課題を用意し、その取り組みを通じて家庭学習の定着を目指す。</li> </ul>		
理 科	科学的な自然観や考え方を身につけさせ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット等のICTを積極的に活用し、授業の導入や考察場面における効果的な提示方法を工夫することで、生徒の理解を深める授業実践を行う。</li> <li>・実験やグループ活動の機会を積極的に設け、実験に関わる基本的な操作を指導し、周囲と関わりながら他者と協議させ、課題を解決する姿勢を身につけさせる。</li> <li>・単元ごとに、問題集などの取り組みの範囲を明示するなどし、家庭学習のきっかけをつくることを年間を通して継続する。</li> <li>・指導と評価の一体化を図るため、定期考査等の結果を分析し、生徒の理解状況や指導上の課題を明確にした上で、授業改善に活かす。また、観点別評価を意識したルーブリックの作成を検討する。</li> </ul>		
芸 術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目共通して、生徒個々の表現力、鑑賞力を伸ばすために個別指導を丁寧に行う。</li> <li>・個人のみならずグループ活動の機会を増やし、基本的な技術の習得とともに周囲と関わりながら問題解決能力を身につけさせる。</li> <li>・ICT機器の効果的な活用方法を工夫しながら、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。</li> </ul>		
保健体育	『心』と『体』の調和のとれた生徒の育成。 健康の保持増進に必要な行動を自発的・自主的に実践する能力を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やグループ活動を通して、規範意識や集団内での適切な行動の仕方を学び、良好な人間関係の育成に資する態度を身につける。</li> <li>・生活の基盤となる基礎体力の向上を図るとともに、保健に関する基本的な事柄を学習し、その内容を発表などで表現する活動を通して、健康的な生活を送ろうとする態度を養う。</li> </ul>		
家 庭	実践的・体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みらいを明るくできる人」を育成するため、「持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になる」をテーマに教科指導を行う。</li> <li>・家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫する。</li> <li>・ICTを活用し生徒の理解を促進させる。</li> </ul>		
英 語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行うとともに、ICTを活用した授業を創意工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。</li> <li>・リーディングテスト(初見)は年間4回以上</li> <li>・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上</li> </ul> <p>本校生徒の実態に合った目標を設定し、目標達成を目指すとともに、自ら学習する姿勢を身につけさせる。 英語科教員間での研修や授業見学などを通して、より良い授業を考え、実践する。 個々の教員が作成した教材の共有化を進め、データの蓄積を図る。</p>		
情 報	高度情報化社会における課題を認識し、情報機器を活用した問題解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と社会について体系的・系統的に理解するとともに、情報と社会との関わりに関する課題を発見し、情報に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</li> <li>・情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与する態度を養う。</li> </ul>		

領域/教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
総合的な探究の時間	<p>実社会や実生活と自己とのつながりから問いを設定し、「自分ごと」として課題解決に取り組む中で、主体的に動き他者と関わる力を育成する。            新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次には「地域課題探究」により視野を広げ、2年次には「自己探究」により内発的な疑問を深め、3年次の進路実現につながるよう系統立てた学習を目指す。</li> <li>・調べ学習で終わらせないよう、企画会議や担当者会議により実践的な学びを模索する。</li> <li>・外部講師や大学等機関との連携により、国際的視野を涵養するなど、より良い学びにつなげる。</li> </ul>		
学校運営協議会による評価				
次年度に向けた改善の方向性				